

執筆者一覧 (名字五十音順)

板垣竜太	同志社大学
岩崎稔	東京外国語大学
小栗宏太	東京外国語大学大学院博士後期課程
小田原琳	東京外国語大学
Elisa Camiscioli	Binghamton University, State University of New York
駒込武	京都大学
酒井直樹	Cornell University
塩原良和 (翻訳)	慶應義塾大学
芹生尚子	東京外国語大学
高橋誠 (翻訳)	慶應義塾大学
趙沼振	東京外国語大学大学院博士後期課程
塚田浩幸	東京外国語大学大学院博士後期課程
中野敏男	東京外国語大学 名誉教授
中村理香	成城大学
成田龍一	日本女子大学 名誉教授
タカシ・フジタニ	University of Toronto
Maja Vodopivec	Leiden University
増渕あさ子	日本学術振興会 特別研究員
水谷智	同志社大学
山田智輝 (翻訳)	京都大学大学院博士後期課程
楊柳岸	東京外国語大学大学院博士後期課程
尹京順	平和統一研究院 研究教授
米山リサ	University of Toronto
李孝徳	東京外国語大学
林静	東京外国語大学大学院博士後期課程
渡辺直紀	武蔵大学

編集後記

『クアドランテ』23号をお届けします。前号をお届けしたのは、すでに新型コロナウイルス対策に関する特別措置法が制定され、4月7日の緊急事態宣言を前にしている時期でありました。

そのようななか、前号の後記で、こう記しました。「それぞれの「現場」の活動がどれほどの人たちの「見える手」によって支えられているかということもまた——と同時に、自らの「現場」が他の「現場」を足蹴にしているかもしれないと懷疑しつつ——、「常日頃」そのものが危うくなるようなときにこそ、確かめなおしたいものです。」

今号は、さまざまな困難のなか、それぞれの「常日頃」をつくりなおすなかで紡がれた探究の記録です。現地に赴くことがかなわなかったり、資料蒐集が困難になったり、などと、とりわけこれからを踏み出そうとしている学究の徒にとっては茫然自失と思わされる事態もあったのかもしれません。また逆に、オンラインというかたちをとることで、遠く離れたひとびとが移動せずに議論を交わすことができもするのだという機会を再確認したという「利」ももちろんあったのかもしれません。そうしたさまざまがあつたうえでの23号です。

緊急事態宣言といえば、10年前にも、原子力緊急事態宣言がありました。小誌でも、この10年の年月をあらためて振り返る機会にもしたいところでしたが、そうした企画をもつことができませんでした。不徳の致すところです。

最後に。ここではお名前を挙げませんが、研究員のなかには、この3月をもって、海外事情研究所を「卒業」され、新たな生へと踏み出されるかたがたが幾人かおられます。そのかたがたがこれまで当研究所、そして『クアドランテ』に遺され、託された、多くの種を大切に育ててゆかねば、と思っている次第です。ほんとうに、ありがとうございました。

(『クアドランテ』編集長 大川正彦)